



景観に配慮した建築物 船橋日大前駅

平成8年4月に開通した東葉高速鉄道の駅舎のひとつである。付近に広がる住宅地の利用者も多いが、隣接する日大理工学部はこれを機会に正門を駅前に移し、駅前広場を駅舎・正門と一体的に整備している。

昨今の駅舎が、駅ビルの開発に食われ、駅としての公的機能がないがしろにされる傾向にあるのに対し、駅本来の機能を重視しているのが、さすがしさを感じさせる。わずかに展示に使えるような多目的空間を設けているが、過度のコマーシャルイズムに陥らなければ、コミュニティから親しまれるものになるだろう。

線路とホームが地下であるのに、駅舎全体を鉄骨のフレームで覆ったような構成で、内部に柱をもたない空間を少し変わった構造の屋根でかぶせているが、この構造を素直に見せているデザインは、中を通る人を楽しませてくれる。グレイを基調にして朱をアクセントに用いた色彩も気持ちよい。

ただ、駅前広場があまりにも整然と整備されすぎ、背後に住宅地を控えているように見えないのが残念で

所在地：船橋市坪井町681-3
施主：東葉高速鉄道(株)
設計：日本大学設計グループ
日本鉄道建設公団
パシフィックコンサルタンツ(株)
施工：奥村・福田特定建設工事共同企業体



ある。駅前広場に面しては、将来多少の商店や案内看板が配置されてもよいようにしておくべきではなかったろうか。ホームの反対側の駅舎が未完であるなど、まだ整備の終わっていない部分もあるのだが、もう少し人気を感じさせる駅でありたい。

(守屋秀夫)

高齢者、障害者等に配慮した建築物 市原市勤労会館

市原市勤労会館は、勤労者の文化教養の向上および健康増進等を図ることを目的に設立された多目的公共施設で、広く一般市民にも開放されている。

建物は「市原市における福祉まちづくり推進指針」に基づき、身体障害者や高齢者を含むあらゆる人々が安全かつ快適に利用できるよう、利用者動線、廊下等の幅員、平坦性の確保などが配慮され、車いす用便所およびシャワー室の設置、要所での誘導ブロックの配

所在地：市原市五井8187-1
施主：市原市
設計：(株)横河建築設計事務所
施工：日産・進和特定建設工事共同企業体

置等も行われている。一昨年のハートビル法の制定、本年の千葉県福祉のまちづくり条例の制定等、高齢者、障害者配慮の建築空間実現への取り組みが急ピッチであるが、この建物はそこでの基準も充足している。

しかしながら、基準は満たしていながら、実際に利用者がどう使うかまでのきめ細かな配慮にやや欠けたために、出入口の床段差や水勾配の処理等の点でいくつかの不具合も見受けられた。今後、ただ基準を守るだけでなく、実際の利用者へのきめ細かな配慮によりバリアフリーデザインがますます発展することを期待したい。

さらに、もう一つつけ加えるなら、建物の外観デザインにも少々配慮がほしかった。この建物が立地するところは、中央図書館、保健・急病センターもある市原市民のためのシンボリックなエリアである。にもかかわらず、三つの建物が互いに威を競い合うような感があったのは残念であった。

(園田眞理子)

